着地型日本版DMOをけん引

～観光マーケティング・下呂市DMO事業・持続可能な観光地戦略～

特別インタビュー

着地型日本版DMOの成功モデルとして各地のDMOや経済団体、大学の視察が増加している下呂温泉（岐阜県下呂市）。2011年から実践している観光マーケティングと、今年度の日本版DMO法人としての取り組みを瀧康洋・下呂温泉観光協会長に聞いた。

瀧　康洋 氏
(一社)下呂温泉観光協会長

エコツーリズム商品が順調に成長
オーバーツーリズムもDMOで対応

――今年度の宿泊客の状況は

瀧　今年度については、昨年度は全国的に自然災害が多発した年であること、一昨年が下呂温泉にとって宿泊客が110万人を超えて近年では過去最高を記録した年ということで、上がってくる数値やデータは通常よりも複雑に見える。簡単にいえば7月を見ると昨年度よりは多く一昨年よりは少ない。4月～7月は昨年、一昨年よりも上回っている。前提条件を忘れて数字だけ追いかけてもマーケティングとはいえない。よく聞かれる韓国人観光客については団体のキャンセルが出て、個人客は微減の印象。香港も少し影響が出ているのか微減。下呂温泉は旅行費用に余裕のある層を中心に世界各国や地域から訪れてもらっているので、韓国や香港の減少分よりも4月～7月でいえば欧米、東南アジアの伸び率が高く外国人観光客は全体で前年比3・8％増と好調となっている。下呂温泉の温泉そのものの魅力と飛騨地方の食の魅力の両方が高い評価を得ている結果と言える。2011年から行っている観光マーケティングの数字で見ると8月が下呂温泉のトップシーズンで観光客数が12万人を超える。これが今のところ受け入れの限界に近いとみている。8月でこれ以上の数字が記録されることや、通年で12万人を超える月が複数出てくるとオーバーツーリズムを警戒する必要がある。私は持論としてオーバーツーリズムの発生もDMO機能で解消できると考えている。

インバウンドの比率は昨年度は約12％まで上がってきた。一昨年は約10％。一昨年の11ドも速くなっている。継統事業でいえば、エコツーリズム推進事業、ガイドブック制作事業、新スイーツ開発事業などを実施する。下呂温泉DMOの目玉事業であるE―DMO。エコツーリズムを柱のひとつにして、エコツーリズムの理念をDMOにプラスしたE―DMOを進めている。下呂市や「冬の滝めぐり」、鮎で人気の馬瀬地区「季節を楽しむ　里山集落散策」などが堅調に集客出来ていて嬉しい。地区によっては、無料で参加できるエコツアーも設定し広告収入を得る事業。6万部を発行する。DMO事業なので広告料金が非常に低く設定されているので事業単独の黒字に至っていないがDMOとしてガイドブックに付いて

――今年度のDMOの取り組みは

瀧　ここ数年の傾向としては継続事業が増えてきた。これは良い傾向で試験的にスタートした事業に効果があった為、継続事業として実施できており、事業決定のスピードも速くなっている。継統事業でいえば、エコツーリズム推進事業、ガイドブック制作事業、新スイーツ開発事業などを実施する。下呂温泉DMOの目玉事業であるE―DMO。エコツーリズムを柱のひとつにして、エコツーリズムの理念をDMOにプラスしたE―DMOを進めている。下呂市や「冬の滝めぐり」、鮎で人気の馬瀬地区「季節を楽しむ　里山集落散策」などが堅調に集客出来ていて嬉しい。地区によっては、無料で参加できるエコツアーも設定しを配布。昨年度の実績で予約件数が43・8％増の2233件、参加人数は34・5％増の5057人、取り扱い額が32・7％増の1317万142円となった。これは非常に大きな成果と考えている。もうひとつがワンコイントリップ事業。下呂市内の人材育成も兼ねているほか、下呂のエコツアーや体験メニューが

東仙峡金山湖カヤックツアー

蛍石鉱山　ミネラルハンティングガイドツアー

冬の滝めぐり

ガイドブック表紙

新スイーツメニュー（水明館 下呂シューパルフェ）

ワンコイントリップの様子

キャッシュレス操作説明会

昨年商品化したスイーツ事業も好調だ。地元シェフやパティシエが工夫を凝らして創作したパフェで、食べ歩きやテイクアウトしてもらうもの。今年度も新規店舗や新メニューも売り出された。下呂の名物として定着してきた。

新規事業としてはキャッシュレス化推進事業。インバウンドでの利用拡大や10月からの消費税増税の際に政府で実施される代金の5％ポイント還元に対応できるようにセミナー開催とキャッシュレス決済に関わる専用機器をDMOから31台無料で提供した。

――持続可能な開発目標（SDGs）の取り組み状況は

瀧　エコツーリズムによるSDGsの検討を始めた。小中高生向けに講座を開講する。将来的には「SDGs」認定団体を目指したい。

優れていることを宿泊施設の従業員に知ってもらい宿泊客に提案してもらう他、宿泊施設のブログで紹介していただいている。参加費はワンコインの500円。

――ガイドブック制作事業、新スイーツ開発事業、新規事業などは

瀧　ガイドブック制作事業は、その名の通りガイドブックを発行して、いるクーポンの利用状況を追跡調査している。クーポンの利用をきっかけにした消費額の増加分や経済効果も算出しており、事業自体に効果があることは確認できている。もちろん単純にガイドブックを発行するよりもはるかに安価な情報誌というカタチでガイドブックを発行できていると考えれば極めて効果が高い事業だ。

参加してもらえる。

エコツアーで下呂温泉らしい取り組みも実施している。宿泊施設と着地型観光事業者の連携事業で、夏、秋、冬3シーズンの体験ポスターを制作し宿泊施設や観光施設に掲示。QRコードで体験予約ページにリンクしている。宿泊施設では市内26カ所で使用可能な体験料500円割引クーポン

ワンコイントリップの様子

キャッシュレス操作説明会

世界一の花火師による下呂温泉の花火

第6回世界花火師競技会で、下呂温泉の花火イベントを担当する会社が世界一になった。下呂温泉では、夏の下呂温泉まつりをはじめ、12月～3月にかけての花火イベント、9月にはクラブツーリズム主催の花火が開催される。特に下呂温泉花火ミュージカルは、コンピュータを駆使した特殊演出花火。最新のヒット曲や往年の名曲など、さまざまな音楽に合わせて華麗に打ちあがる音楽と光のライブショーとなっている。

★下呂温泉花火ミュージカル冬公演
12月の各土曜日（7日・14日・21日）24日（クリスマス特別公演）※28日は除く。
冬の澄み切った夜空に、音楽に併せて華麗に花火が舞い踊る。
20時～　約15分間。クリスマス特別公演は約30分間。

★冬の下呂温泉花火物語
2020年1月～3月の毎土曜日。新春、節分、バレンタイン、合格祈願など、毎週テーマに併せた演出あり（音楽なし）。※予告なく変更中止となる場合がある。

（問）（一社）下呂温泉観光協会　TEL：0576-24-1000

温泉でコンベンション

下呂温泉を中心とする下呂市内には、全体で約1万人の収容能力を持つ宿泊施設を有し、本格的なMICE（ミーティング・インセンティブ・コンベンション・イベント）の受け入れを行っている。メイン施設である「下呂交流会館」は、本格的なアリーナ（体育館）とコンサートホールが併設する複合施設。オープン以来さまざまなコンサートやスポーツ大会・トークショー・寄席などが開催されており、最大で3千人規模のコンベンションが可能。本施設の利用で助成金制度を申請する団体が増えている。

※コンベンション … 大会・会議・学会・研究会・研修・合宿など。但し営利目的のコンベンション、政治団体・宗教団体またはそれに類する団体に関係しないもの。

対象となる条件

①主たる会場が下呂市内の会議施設等であり、2時間以上のコンベンションが開催される事。

②下呂市内での宿泊を伴う事。
（コンベンション参加による宿泊であり宿泊施設を利用する事）

③コンベンション開催前に助成金支給の申請（別紙様式）がなされる事。

※コンベンション参加者宿泊人数は、コンベンション一開催期間の単日ごとの宿泊について区分する。

なお、連泊を伴うコンベンションで、単日ごとの宿泊人数が表中のコンベンション参加者宿泊人数に達しない場合は、開催コンベンション期間の総宿泊人数（延べ宿泊人数）によって区分する。

その他、詳細については下記事務局に問い合わせ。

下呂交流会館アクティブ

コンベンション参加者宿泊数（単日あたり）	助成金額
15人～29人	15,000円
30人～49人	30,000円
50人～99人	50,000円
100人～199人	100,000円
200人～299人	140,000円～209,300円
300人～399人	210,000円～279,300円
400人～	280,000円～

■問い合わせ先　（一社）下呂温泉観光協会／コンベンション事業部　TEL：0576-23-0070